

# 校名：福岡教育大学附属福岡中学校

所在地：〒810-0061 福岡県福岡市中央区西公園 12 番 1 号 電話番号：092-771-8381

記載日：平成 28 年 5 月 20 日 記載者： 記載者役職：

## ■01 本校の役割

本校は、国立大学法人福岡教育大学の附属学校として設置された中学校で、教育基本法および学校教育法に基づき、小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて中等教育を行う学校です。また、次のような任務を遂行する学校でもあります。

- 福岡教育大学教育学部学生の教育実習、及び教職大学院生の「学校における実習」を行う学校です。
- 大学の教育研究に協力するとともに、中等教育に関する先進的な実践的研究に取り組む学校です。
- 大学と協力して中学校教員の現職教育を行うとともに、地域のモデル校となり中等教育の充実・発展に寄与する学校です。
- 特別支援教育の実践的研究に取り組む学校です。

## ■02 本校の教育目標

本校は、次の校訓に則り、心豊かにたくましく主体的、創造的に生きることのできる生徒を育成します。

### 『われ日本の大樹とならん』

- **行第二里**  
義務や言われたことだけでなく、自ら進んで善を行い、世に尽くす
- **一歩々行万里**  
万里の道も一歩一歩から。まず一歩を踏み出し、弛まぬ努力で目標を達成する。
- **不動心**  
失敗、困難に遭遇しようとも屈することなく、周りに流されずに創造的に前進する。

### 本校の3大学校行事

◎学校行事の中でも、特に「附中三大行事」と呼ばれる「体育会」「文化発表会」「遠行会」は、3年生のリーダー（生徒会役員・ブロック長・女子リーダー）が中心となり、企画・運営・実施に関して自主的・主体的に創り上げていく行事です。その中でも、教育目標の「行第二里」「一歩々行万里」「不動心」は常に意識されて取り組まれています。



<寒風の中46km を歩く『遠行会』>



<生徒が種目を創る『体育会』>

## ■03 目指す学校および生徒の姿

### 【教育目標】

◇ 校訓『われ日本の大樹とならん』 「行第二里」「一歩々行万里」「不動心」

### ◆めざす学校像

#### 『附属中としての品格と創造を重んじる学校』

- 明るく活き活きとし、清潔で規律ある学校
- 一人一人の発想・創造性を大切にする学校
- 伝統を生かし、自主性を重んじる学校
- 家庭や地域との連携を大切にし、開かれた学校
- 多くの人に愛され、関係各方面から信頼される学校



### ◆めざす生徒像

- 学ぶ意義や目的を明確にし、生涯にわたって主体的に学び続ける能力や態度を身に付け、課題を解決していくことができる生徒  
〈自ら学ぶ生徒〉
- 様々な物や人との出会い、体験活動、学習などから、ものの見方や考え方を幅広く学び、人としての在り方や生き方を能動的に形成していこうとする生徒  
〈心豊かな生徒〉
- 自己の特技・特性を発揮し自己表現しながら個性を伸長するとともに、互いの個性や考えを尊重し集団の向上に貢献しようとする生徒  
〈個性を生かす生徒〉
- 自然や文化、人々との関わりを積極的に持ち、共存・共生できる社会を創造しようとする生徒  
〈共存・共生社会をめざす生徒〉

### ◆めざす教師像

- 個性的で、はつらつとした教師
- 柔軟な発想で自ら研鑽し、常に向上し合う教師
- 師弟同行の精神で、生徒一人一人にかかわる教師
- 家庭や地域社会と連携し、信頼される教師

### 【中期目標 (H27～H29年度)】

◎ 「附中生としての品格と芯を兼ね備えた生徒」の育成

### 【本年度(H28年度)の重点目標】

◎ 「附中生としての芯を備えた生徒」を育成し、そのよさを発信する。



### ☆重点的に目指す生徒の姿☆

- 直面する学習課題に対してその解決の必要性を自他に問い、多様な道具を使いこなしながら、最適な解を他者と協働して追究し成就感を味わう生徒。
- 全ての教育活動の中で、その活動の目標を把握し、それに見合うリーダーやフォロアー各々の立場や役割を自ら考えて理解し、達成意識を明確にもって実践する生徒
- 自他の言動を客観的な眼で見つめ直し、自分自身や他者のよさを認め表出しながら互いを高め合い、「チーム附属中」を創り続ける生徒
- 福岡や地域の一員としての自覚を高め、福岡(地域)の規範を高める言動や地域への貢献活動への取り組みを誇りを持って行う生徒。

## ■04 特色あるカリキュラム

本校では、「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業づくりを進めています。

### 各教科の授業でも「アクティブ・ラーニング」を取り入れています

自分の考えを友達に説明したり、友達と話し合ったり、みんなの前でプレゼンテーションをしたり、各教科の授業ではそんな**アクティブな活動**を中心としています。○や×のつく「正解」のある問題を解くものではありません。いろんな「答え」がある問題に、自分なりの「答え」を探します。より良い「答え」を創り出すために必要なことを勉強します。

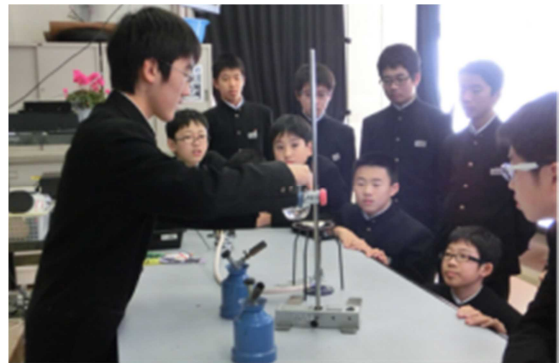
**学ぶ心がアクティブ**であること、それが本校の授業のモットーです。授業はまじめに「受ける」ものではなく、自分で「創る」ものです。受け身の勉強をやめると、勉強はもっと楽しくなります。もちろん、必要な知識や技能も確実に身につけます。



### 総合的な学習の時間の授業でも「アクティブ・ラーニング」を取り入れています

#### (1) 「フロンティアタイム」

生徒自らが自分の興味・関心に基づいてテーマを設定し、そのテーマを納得のいくまで探究していく「学び」の時間です。探究のまとめとして、最終日には15分間のミニ授業を行い、自分の探究した内容について報告し合います。



#### (2) 「言いたか放談」

現在の社会問題をテーマにして、20名程度の小グループに分かれて活動を行います。一人一人が、テーマについて、何が問題なのか、社会でどのような論議がなされているか等を探り、グループで議論を行うことで、テーマに対する新たな見方や考え方を広げたり深めたりします。

#### (3) 「こらぼるアワー」

「こらぼるアワー」は文字どおりにコラボレート (*collaborete*)する時間です。人と人がコラボレートしたり、物と物とをコラボレートさせたりすることで、一人では得られない成果が得られます。それぞれの個性や特徴を活かして、最大限の成果を生み出すことを目指します。特別支援学級の生徒と通常学級の生徒が共に学ぶ時間でもあります。



## ■05 教育実習

本校の教育実習は、福岡教育大学の教育実習システムにしたがって実施し、毎年約100余名の教育実習生・教職大学院生を受け入れている。教育実習生については、教育実習の行われる前年度(大学2年次)に、「観察参加」を実施する。これは、次年度の本実習に向けて取り組む心構えや授業を見る目を養うものである。本実習(大学3年次)は、中等教育教員養成課程の教育実習生を9月に3週間、生涯教育課程の教育実習を10月に2週間の期間で実施し、次代を担う若い教師を鍛えている。

## ■06 研究発表会や地域貢献

### 《研究発表会》

【研究主題】 21世紀型の学びを実現する授業づくり  
－アクティブ・ラーニングを促す学習・教授パラダイム－

21世紀を生き抜くための資質・能力の育成に向け、本校では各教科で2種の授業を展開しています。これまでの研究において、何を、いつ、どのように「教える」のかを追究してきた本校は、本研究において、生徒が生き生きと活動したり、真剣に思考したりする中に教えるタイミングを見つけ出す授業を「*Instruction*」として提案します。同時に、これまでよりもいっそう「教える」から「学ぶ」へと焦点をあてた「*Learning*」という授業も提案します。アクティブ・ラーニングが求められる今後の教育、各教科の授業において「授業」の捉え方、在り方の根本的な改革、つまりパラダイム転換をねらっています。今年度は特に、各教科を通して育成すべき資質・能力や、「*Instruction*」と「*Learning*」の機能的な併用の在り方について研究を発信します。



【特別支援教育 研究主題】 主体的に目的を達成する生徒の育成  
－解決方法を見いだすことができる振り返りを通して－

特別支援教育研究においては、積極的に社会に参加・貢献していくために、意思決定を行いながら主体的に目的を達成する生徒の育成をめざした授業の在り方を研究しています。昨年度の研究により、主体的に目的を達成するために、自己観察や自己評価において、PASS理論に基づいた4つの認知処理過程に着目し、実態把握を行うことで、認知傾向を把握し、手だてやできる状況づくりに反映することができました。今年度は、生徒がより自分自身の傾向を「わかる」ために、自己評価・自己観察の充実を図るとともに、その振り返りの在り方を検証し、発信します。

◇◇◇◇ 本年度の「研究発表会」は 11月11日(金)に開催します。詳細はHPをご覧ください。◇◇◇◇

### 《授業づくり研修会》

若年教員を対象とした研修会で、授業づくりの基礎・基本を本校教員の授業を通して若い先生に共に学んでもらうことを目的とした研修会である。会を重ねるごとに参会者も増え、好意的に捉えられ、「ためになった」という感想も多く受けてきた。近年は、福岡教育事務所と連携し、教育事務所管内の臨時採用教員の研修の場としての役割を果たしている。

また、参加教師が共に学び合うという方針をとっている「授業づくり研修会」を充実させるため、昨年度は、この「研修会のもち方」に目を向け、ワークショップ等を取り入れた研修会のもち方を各教科共通のテーマとした。このことは、教師が学び合える研修会のデザインを考えることは、生徒の学びをデザインする際にも示唆を得られ、日々の授業改善へとつながるといった成果へとつながった。

◇◇◇◇ 本年度の「授業づくり研修会」は 2月23日(木)に開催します。詳細はHPをご覧ください。◇◇◇◇